

## 統計処理で介護の品質アップ (1)

ワンズヴィラ池鯉鮒

代表取締役 深谷憲夫

当施設ではご利用様の健康維持の為に科学的な統計学上からの分析を行い介護法の参考にしております。ここにその内容に関しご紹介致します。

まずは目的からご紹介致します。順を追ってご説明することでご理解いただけると考えます。

- (1) 過去の生理現象を数値で把握 (バイタル値等の生理現象)
- (2) 現状値と比較し
- (3) 傾向の 変化を分析
- (4) 一般的標準値、個人別の平均値(標準値)との比較 相違点の掌握
- (5) 健康な通常に戻すべく各種専門家の協力もお願いしながら介護経過観察
- (6) 必要に応じて 対策を実施 その記録・観察・記録の補強

このような(1)～(6)のサイクルを常時日常的に繰り返し、ご利用者の個性を掴み、個人別健康維持を実施しようという科学的な介護であります。介護が「感」や「旧態依然」としたものは無く、事実データで健康維持、その可能性を大いに高め、皆様に喜んでいただく質の高い介護を目指すものであります。勿論現状の良いところは維持しながらです。

もう少し具体性をもってご説明致しますと

ご利用者個人の特徴を把握するために最低でも1ヶ月のデータを普段の生活の中で記録を取って統計処理を加え健康維持の基本データとします。当施設をご利用いただけますと日々の生活に於いて自然な姿で、バイタル測定、身長体重、食事量、排泄状況、等の介護の観測データを計ります。

バイタル測定---- 血圧(高低値と脈圧)、脈拍数、体温 等

身長と体重

水分の摂取量

尿量、(その回数、色等々)

便量、(その回数、形状、硬さ、色等々)

生活環境(出来事、レクリエーション、その他)

介護士、看護師からの記録を用いて、平均値、標準偏差、変動値、傾向値、等の個人の特徴を掴みます。更には、その時の出来事、前後の傾向との違い、等の情報からこれから発生するであろう事象の可能性を統計学ではじきだします。

ここで 重要なのは分析から算出された統計値を科学して、体調が不調にならないように予防する事が重要であります、それは皆様の経験上からもお分かりのように時として可能なのです。（これを健康管理と予防管理としています。）

例えば、過去にこの方は「血圧がこのような傾向」を示したとき次には「このような体調不調になった」、我々は予防のために、「同様のことが繰り返し発生しないように医師の助言を頂こう。」または「このような介護の変更をしよう」と分析データから考えるのです。時系列の日々のデータが参考になります。

又、「最近水分の摂取量が少なくなっている。何らかの形で水分をもっと摂取していただく。」。「この方は健康時平均的に900cc程度摂取している方なので少々頑張って摂取していただく。統計学的にできる可能性（確率）のある方ですから出来るでしょう。」と展開されていきます。

又更には、体重変化、排泄の変化等においても健康維持のためのご利用者様個人のデータを把握しながら我々の 介護方法に科学的（統計的）な根拠に基づいた介護の変更をさせて行きます。

本格的に初めて6ヶ月、やっとな皆様にご説明できる根拠有るものが完成し、充実に磨きをかけ改定もしてまいります。本件は職員の教育も非常に重要であります。今後は統計学に医学的な専門知識を加え、ワズヴィラ池鯉鮒独自の健康管理。予防管理をご提供してまいりたいと考えています。

サンプルデータに関して： 仮に作成された図表としてご覧ください。

図表はご本人とご家族にデータは配布されたり、更に整理した一覧表は職員のご利用者の対応用にもなります。この図表から介護の内容に変更が加えられたり、参考に保存されたりします。

この他に各種の分析データ、整理データを作成し、よりの確なご指摘、ご指導ができるように計画し、実行中です。

今後ますます充実した介護をご提供できるように職員一同努力してまいります  
宜しくお願い申し上げます。

平成27年11月



